

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年2月12日

【四半期会計期間】 第153期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 広栄化学工業株式会社

【英訳名】 KOEI CHEMICAL COMPANY, LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 神田直哉

【本店の所在の場所】 大阪市城東区放出西二丁目12番13号

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っている。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町1番8号

【電話番号】 03(6837)9304

【事務連絡者氏名】 経理室長 浜辺昭彦

【縦覧に供する場所】 東京本社

(東京都中央区日本橋小網町1番8号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第152期 第3四半期連結 累計期間	第153期 第3四半期連結 累計期間	第152期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	11,802,919	12,660,483	18,221,494
経常損失( ) (千円)	606,318	352,472	359,209
四半期(当期)純損失( ) (千円)	406,047	229,378	244,601
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	359,323	110,913	6,164
純資産額 (千円)	12,114,445	12,368,380	12,479,934
総資産額 (千円)	22,325,319	21,831,901	22,574,944
1株当たり四半期(当期)純損失金額( ) (円)	16.59	9.38	10.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	54.1	56.5	55.1

回次	第152期 第3四半期連結 会計期間	第153期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( ) (円)	7.36	5.92

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はない。

なお、平成25年8月30日に提出した臨時報告書の内容のとおり、特定子会社である広栄パーストーブ株式会社を、合併事業の所期の目的を達成したことから、平成25年12月31日に解散した。清算終了は平成26年7月上旬を予定している。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等を行われていない。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、為替が円安基調となり、個人消費、企業設備投資も回復に向かうなど、景気は緩やかに回復しつつある。

このような情勢のもとで、当社グループは、更なる固定費削減と徹底的な製造コスト合理化を推進するとともに、売価是正、新規顧客・用途の開拓、新製品の拡販などに注力し、全社を挙げて収益性の改善に取り組んだ。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、円安による円手取り額の増加により126億6千万円（前年同四半期比7.3%増）となった。利益面については、売上高増収に加え、固定費削減により、当第3四半期連結会計期間では黒字となった。しかし、第2四半期連結累計期間の損失により、当第3四半期連結累計期間では、営業利益は4億9千5百万円の損失（前年同四半期は6億9千8百万円の損失）、経常利益は3億5千2百万円の損失（前年同四半期は6億6百万円の損失）、四半期純利益は2億2千9百万円の損失（前年同四半期は4億6百万円の損失）となった。

セグメントの状況は、ファイン製品部門の売上高は80億4千万円（前年同四半期比6.6%増）となり、セグメント損失（営業損失）は2億6千5百万円（前年同四半期は5億2千5百万円の損失）となった。化成品部門の売上高は46億1千9百万円（前年同四半期比8.4%増）となり、セグメント損失（営業損失）は2億3千万円（前年同四半期は1億7千2百万円の損失）となった。

引き続き拡販、売価是正及びコスト合理化などに努める必要があると認識している。

#### (2) 財政状態の分析

##### 資産

流動資産は、売掛金は減少したが、棚卸資産（「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」）の増加などにより、前連結会計年度末に比べ1千万円増加し109億8千2百万円となった。

固定資産は、設備投資の厳選により、前連結会計年度末に比べ7億5千3百万円減少し108億4千9百万円となった。

この結果、総資産は218億3千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億4千3百万円減少した。

##### 負債

流動負債は、短期借入金の減少により、前連結会計年度末に比べ5億6千9百万円減少し75億4千1百万円となった。

固定負債は、長期借入金の減少により、前連結会計年度末に比べ6千1百万円減少し19億2千1百万円となった。

この結果、負債合計は94億6千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億3千1百万円減少した。

#### 純資産

純資産は、四半期純損失のため、前連結会計年度末に比べ1億1千1百万円減少し123億6千8百万円となった。自己資本比率は、総資産の減少により、前連結会計年度末の55.1%から56.5%となった。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

#### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は6億1千万円である。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

#### (5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員の著しい増減はない。

#### (6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はない。

#### (7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はない。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	24,500,000	24,500,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は、 1,000株である。
計	24,500,000	24,500,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年12月31日		24,500,000		2,343,000		1,551,049

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載している。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 33,000		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,425,000	24,425	
単元未満株式	普通株式 42,000		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	24,500,000		
総株主の議決権		24,425	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 955株が含まれている。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 広栄化学工業株式会社	大阪市城東区放出西二丁目12番13号	33,000		33,000	0.13
計		33,000		33,000	0.13

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はない。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けている。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	404,127	421,362
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 5,139,988	<sup>1</sup> 4,213,286
商品及び製品	3,739,751	4,072,403
仕掛品	816,422	1,218,591
原材料及び貯蔵品	659,187	636,451
その他	212,778	420,755
流動資産合計	10,972,255	10,982,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,604,740	4,442,120
機械装置及び運搬具(純額)	4,289,280	3,659,961
建設仮勘定	67,828	40,801
その他(純額)	448,534	426,341
有形固定資産合計	9,410,383	8,569,224
無形固定資産	26,796	31,813
投資その他の資産		
投資有価証券他	2,173,623	2,256,125
貸倒引当金	8,114	8,114
投資その他の資産合計	2,165,509	2,248,011
固定資産合計	11,602,688	10,849,049
資産合計	22,574,944	21,831,901
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<sup>1</sup> 3,226,237	<sup>1</sup> 3,469,768
短期借入金	3,948,372	3,285,200
未払法人税等	13,733	11,972
引当金	95,301	-
その他	<sup>1</sup> 827,870	<sup>1</sup> 774,945
流動負債合計	8,111,516	7,541,885
固定負債		
長期借入金	75,200	-
退職給付引当金	1,461,770	1,449,407
その他	446,523	472,228
固定負債合計	1,983,494	1,921,635
負債合計	10,095,010	9,463,521

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,343,000	2,343,000
資本剰余金	1,551,049	1,551,049
利益剰余金	7,696,962	7,467,584
自己株式	9,655	10,295
株主資本合計	11,581,356	11,351,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	863,639	980,995
その他の包括利益累計額合計	863,639	980,995
少数株主持分	34,938	36,047
純資産合計	12,479,934	12,368,380
負債純資産合計	22,574,944	21,831,901

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	11,802,919	12,660,483
売上原価	10,319,655	11,010,971
売上総利益	1,483,264	1,649,511
販売費及び一般管理費		
発送費	373,291	403,180
給料手当及び賞与	535,570	515,556
退職給付費用	58,543	52,271
賃借料	85,335	68,315
試験研究費	579,044	585,842
その他	550,099	520,246
販売費及び一般管理費合計	2,181,884	2,145,414
営業損失( )	698,620	495,902
営業外収益		
受取利息	503	512
受取配当金	43,446	44,483
為替差益	29,065	142,586
受取補償金	13,142	4,794
貸倒引当金戻入額	26,364	-
雑収入	22,141	10,258
営業外収益合計	134,662	202,635
営業外費用		
支払利息	16,597	17,170
固定資産除却損	16,003	36,603
雑損失	9,758	5,431
営業外費用合計	42,359	59,205
経常損失( )	606,318	352,472
税金等調整前四半期純損失( )	606,318	352,472
法人税等	205,310	124,202
少数株主損益調整前四半期純損失( )	401,007	228,269
少数株主利益	5,040	1,108
四半期純損失( )	406,047	229,378

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	401,007	228,269
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41,683	117,356
その他の包括利益合計	41,683	117,356
四半期包括利益	359,323	110,913
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	364,363	112,022
少数株主に係る四半期包括利益	5,040	1,108

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
原価差異の繰延処理	操業度等の季節的な変動に起因して発生する原価差異等については、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産（その他）として繰延べている。
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用している。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっている。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理

四半期連結会計期間末日に満期となる期日現金、満期手形については満期日に決済が行われたものとして処理している。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日期日現金、満期手形を満期日に決算が行われたものとして処理している。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形及び売掛金	237,794 千円	284,345 千円
支払手形及び買掛金	209,465 千円	203,151 千円
流動負債（その他）	109,132 千円	46,086 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	1,141,634 千円	1,172,200 千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月10日 取締役会	普通株式	利益剰余金	171,288	7.0	平成24年3月31日	平成24年6月5日

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はない。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 配当金支払額

該当事項はない。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ファイン製品部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,542,043	4,260,875	11,802,919		11,802,919
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	7,542,043	4,260,875	11,802,919		11,802,919
セグメント損失( )	525,931	172,688	698,620		698,620

(注) セグメント損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致する。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はない。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ファイン製品部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,040,899	4,619,583	12,660,483		12,660,483
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	8,040,899	4,619,583	12,660,483		12,660,483
セグメント損失( )	265,376	230,526	495,902		495,902

(注) セグメント損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致する。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はない。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1 株当たり四半期純損失金額( )	16円59銭	9円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額( )(千円)	406,047	229,378
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純損失金額( )(千円)	406,047	229,378
普通株式の期中平均株式数(株)	24,469,215	24,466,810

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【その他】

該当事項はない。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

広栄化学工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小 野 友 之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 瀧 克 仁 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている広栄化学工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、広栄化学工業株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。